

平成30・令和元年度 大島地区指定「指導方法改善」研究協力校 奄美市立赤木名小学校 公開研究会

I 研究主題

自ら問題に取り組み、考えを深め合う子供の育成
～算数科における学びをつなげる活動を通して～

令和2年1月23日（木）
公開

II 研究の視点と内容 研究の仮説

視点1

学習課題と
学習課題のつながり

二つの問題設定のパターン

強固

付加

選択

転換

一単位時間の中で二つの学習課題を取り扱うならば、比較して共通点や相違点に気付いたり、物事を関連付けて考えたりすることができ、統合的に考察する力がつくのではないか。

視点2

子供同士の
考えのつながり

- ・ 視点を明確にした対話活動
- ・ 子供同士のやりとりを意識した発問

教師が、話合いの視点を明確に示したり、子供同士の考えを結び付けるような発問をしたりするならば、対話活動が活発になり、統合的に考察する力がつくのではないか。

視点3

既習内容との
つながり

- ・ 観点を示した振り返り
- ・ 教室内の算数コーナー
- ・ レディネスを揃える算数タイム

子供が既習内容とのつながりを意識し、物事を関連付けて考察したり、自らが判断したことを振り返ったりするならば、統合的に考察する力がつくのではないか。

III 研究授業及び全体会・分科会の様子

開会行事

研究発表

指導講話

全体会

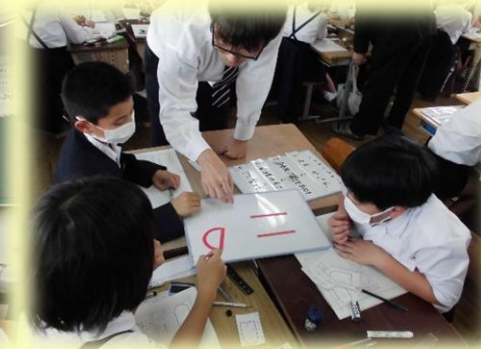


第2学年

第5学年

第6学年

授業



分科会



参加された先生方から

- ・ 研究の視点を網羅した授業が観られた。
- ・ 振り返りで疑問に思った点を取り上げているのがすばらしかった。
- ・ 授業がよく練られて、準備がしっかりとされていた。
- ・ 算数コーナーは、授業中の復習につながって考えるヒントになった。
- ・ 視点を明確にすることで、スムーズな話合いになっていた。
- ・ 二つの課題を追究することは、練り上げの場や考える時間の確保で、難しい面があるのではないか。
- ・ 対話活動は、ワークショップ型にしたり、異なる意見同士で行わせたりするなどを検討してもよいのではないか。